

川島隆太、安達忠夫著「脳と音読」を読む

- 「音読」を考える -

1 . ことばを読み、聞き、話し、書くことで、私たち人間のもっとも大切な脳の領域である「前頭前野」が大いに活性化され、そして発達するのです。

「音読」の力、それは「言霊」(ことだま)をあやつる読み手、聞き手双方の脳に大いなる影響を与えることが、脳科学の研究で明らかにされてきています。P.10

2 . 音読ほど脳全体を活性化する作業を見たことがありません。音読によって脳をたくさん活性化させると、何が起るか。それは、「音読」を「運動」に、「脳」を「筋肉」に、「活性化」を「働かせる」に置き換えてみると見えてきます。

子どもの場合、運動によって筋肉をたくさん働かせてやれば、どんどん逞(たくま)しい体を育てることができます。その結果、将来病気をしない健康な体、優れたスポーツ選手になることもできる体を作ることができます。私たちも毎日、適切な筋肉を働かせる運動を行うことで体の健康を保ち、老化を防ぐことができます。

すなわち「音読」は脳の全身運動であり、脳機能全体を発達させ、脳機能の老化を防ぐことができるのです。P.37

3 . 小学生を対象として音読を 2 分間したあとに、記憶力や空間認知力を見るテストをしました。すると小学生たちは、音読をしたあとは、音読をしなかった場合と比べて、記憶力や空間認知力が 20 ~ 30 % も増加することを発見し、仮説が正しいことが証明できたのです。P38

川島隆太、安達忠夫著

「脳と音読」講談社現代新書、講談社刊 2004 年 5 月 20 日

- 2006 年 8 月 24 日記 -